

「東お多福山ススキ草原復元」活動報告

秦 康夫

2016年5月25日（水）9:00～15:30

- 作業項目：1）外構のササ刈り
2）植生調査
3）登山道調査

参加者約50名が4班に分かれた。うち2班は前回に引き続き、範囲を広げてのネザサ刈り取り、1班は春の植生調査、1班は登山道調査を行うことになり、JAC関西支部の5名は登山道調査担当ということで、登山道を実際に歩いて登山道の現況を調査・確認することになった。

東お多福山への登山道は三通りある。山頂から北、東、南の三方向に分かれる土樋割峠道、芦屋道、雨ヶ峠道の三ルートである。今日はそのうち、芦屋道の実地調査をすることにした。芦屋道は、東お多福山登山口バス停から蛇谷林道に入り、一般車両通行止めゲートを過ぎたところが出発点になる。林道から分岐して左の山道に入り、蛇谷を渡って東お多福山の南東山腹を登るルートで距離は約1km、三つの登山道の中では最も短いルートである。

調査は山頂から下る形で始めた。50mの巻尺で距離を測定し位置を確認しながら、案内標識・緊急通報標識の設置状況、登山道の状態、危険箇所、急坂や段差の大きい箇所での階段の状況等を記録した。展望場所や休憩適地も確認した。ほぼ一本道なので道迷いをする心配はほとんどない。ただ、水切り溝が少ないので、土砂が流されて道が深く掘れ、荒れ道になっている箇所が多かった。1名が、手持ちの鍬を使って7～8ヶ所水切り溝を設置

するなど整備したが、なお本格的な水切り溝設置が必要な所が相当箇所残っている。

芦屋道ルート全行程の調査を終え、更に東お多福山登山口バス停まで約 0.6km の調査も済ませた後、蛇谷林道を歩き、土樋割峠を越えて林道終点までの道路状況を確認した。車の通れる業務用の林道だが、落石発生の恐れのあるところが数ヶ所あり、また工事日には車両の通行もあるので、登山者が歩くときには注意が必要である。

【参加者】

斧田一陽、猪川誠、秦康夫、田島聖子、森脇肇子

計 5 名





② 作業内容の説明



③ 東お多福山 697m 山頂標識



④ 芦屋道入り口



⑤ 随所に水切り溝を作る



⑥ 水切り溝設置中(猪川さん)



⑦ 芦屋道ルート 表示板



⑧ 案内板周辺を整備、繁茂する雑草を刈り取る



⑨ 50m の巻尺で距離測定



⑩ 芦屋道の起点となるバス停



⑪ 別の作業班、ササを刈り取り、登山道を広げる



⑫ 東お多福山への登山道案内図